

竹間沢車人形公演

埼玉県三芳町、奥多摩町川野、八王子市下恩方町の三地域だけに伝承される貴重な伝統芸能

演目

寿式三番叟
車人形教室

日高川入相花王恋闇路
「安珍・清姫悲恋物語」より
「日高川渡し場の段」、「清姫怨靈の段」

出演

竹間沢車人形保存会（人形遣い）
三代目 若松若太夫（説経節）

2023年1月15日（日）開場13:15 開演14:00
プリモホール ゆとろぎ 大ホール（羽村市生涯学習センター）

チケット

10月15日（土）より発売 全席指定席／定員824名

一般 500円 高校生以下無料 ※未就学児の入場はご遠慮ください

プレイガイド

窓口販売

- ゆとろぎ窓口 ☎042-570-0707
(祝日以外の月曜日を除く午前9時～午後8時)
- 羽村市スポーツセンター ☎042-555-0033
(祝日以外の月曜日を除く午前9時～午後5時)
- 西多摩新聞社チケットサービス ☎0120-61-3737
(平日午前10時～午後5時)

インターネット販売

- ゆとろぎ
オンラインチケット
※ 座席指定不可



プリモホール
ゆとろぎ

★プリモライブラリーはむら(図書館)



富士見
小学校

デニーズ

MAP



新型コロナウイルス感染症拡大防止について

- ・公演は感染症対策を講じた上で実施いたします。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止または変更になる場合があります。
最新の情報につきましては、市公式サイト等にて隨時ご案内いたします。

■主催：羽村市教育委員会

■問合せ：プリモホールゆとろぎ 東京都羽村市緑ヶ丘1-11-5 ☎042-570-0707 (午前9時～午後8時 祝日を除く月曜日休館)

竹間沢車人形公演



車人形とは…

轆轤車(ろくろぐるま)という台車に腰掛け、前後左右に動いて、人形を1人で操る人形芝居。

江戸時代末期に、西多摩郡大神村(現 昭島市)の造り酒屋に奉公していた者が創案したとされています。三芳町竹間沢での始まりは、西多摩郡二宮村(現 あきる野市)から、説経淨瑠璃6代目家元の長女が嫁入り道具の一式として人形芝居の用具一式を持って嫁いだことで伝えました。

現在は埼玉県三芳町、奥多摩町川野、八王子市下恩方町の3地域でのみ伝承されています。

寿式三番叟

寿式三番叟は、舞台を清める舞で、その日の舞台を無事に務めあげられますようにと願いを込めて、舞台の幕開けに舞います。

車人形教室

「車人形」の構造や操り方をわかりやすく解説します。

ひだかがわいりあいざくらこいやみじ 日高川入相花王恋闇路 あんちん く安珍・清姫悲恋物語 ひだかがわわたしばのだん 「日高川渡し場の段」「清姫怨霊の段」

紀の国(今の和歌山県)の道成寺を舞台に語り継がれる、安珍・清姫の伝説。

熊野の娘・清姫は、思いを寄せる山伏・

安珍の後を追いかけ、日高川まで辿り着きました。安珍への思いが断ち切れず、

恨みをつのらせた清姫は、日高川を泳いで渡ってしまいます。岸に着いた清姫がふと水面を見ると、そこには蛇に変身した自分の姿が映っていました。

一方、道成寺に逃込んだ安珍は、僧たちによって大きな釣鐘の中にかくまわれました。そこに現れた清姫は、たちまち火炎を吐く大蛇へと変身し、釣鐘に襲いかかります。ぱっと目を引く清姫の変身と、こまやかな情念の表現が好評を博した本演目。

竹間沢車人形保存会

竹間沢車人形は、竹間沢村の神楽師前田左近が江戸の末期から明治にかけて、自ら車人形の頭や道具を作り、それまでの小さな人形を使つた人形芝居から車人形に切り替え、「吉田三芳一座」として、盛んに興行をおこなつた人形芝居です。その後、息子の前田民部に受け継がれましたが、大正時代になり浪曲、映画などに押されて衰退し、大正十年頃に興行が途絶えてしまいました。その後、昭和四十五年に埼玉県の調査により、前田家の納戸から車人形が発見されたのがきっかけで、昭和四十六年に五十年ぶりに復活公演が実現しました。それから四十数年、保存会は竹間沢車人形を守り継いでいます。

説経節 三代目 若松若太夫

わかまつわかたゆう

説経淨瑠璃師。

一九八九年、二代目若松若太夫の公演を聴き、感動を受け入門する。



一九九八年に三代目若松若太夫を襲名。二〇〇〇年、東京都指定無形文化財(芸能)保持者、板橋区登録無形文化財説経淨瑠璃保持者に認定される。

二〇〇二年、韓国全州市で開催された「第二回全州世界ソリ祝祭」に出演。二〇〇七年、埼玉県文化ともしび賞を受賞。二〇一二年、第一回東京「無形文化」祭「語る」—節の競演(紀尾井小ホール)に出演。埼玉県狭山市在住。

